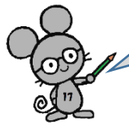
中部教育事務所 数学科担当

# 【学力定着に向けた単元テスト問題等の活用法】



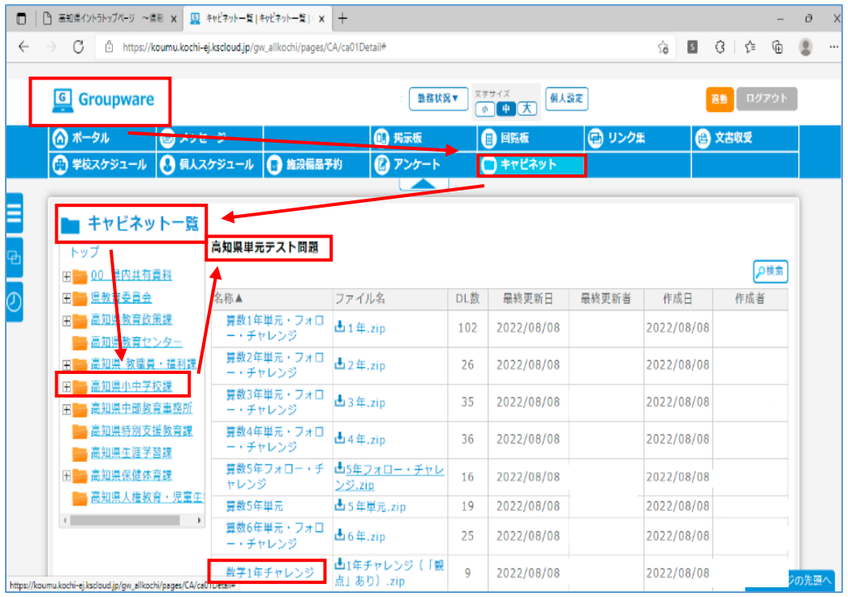
**授業や帯タイム、家庭学習等でもっともっと活用しましょう!!**

○高知県単元テスト問題(「単元チェック」・「フォローアップ」・「チャレンジ」) は、
「Groupware 」
→キャビネット
→キャビネット一覧
→高知県小中学校課
→高知県単元テスト問題
に掲載されています。

**取り出しやすくなったな。**

**数値を変えたら何度でも効果的に使えるわ。**

**帯タイムでも使えるわ。**




○「高知家まなびばこ」→　学年別リンク(各学年の学習ページ)→　数学オンライン教材には、「単元チェック」「チャレンジ」の問題が掲載されています。
フォームで解答し、答え合わせまで生徒自身でできます。一人一台端末を活用して帯タイムや家庭学習等で、個別の学習ができます。

**前にできなかったところをもう一度やってみよう!!**

**「単元チェック」で見られた課題をこれらを使って改善しよう。
期末テストでは、全員が解けるようにしなくては!!**

## 活用例1（単元が始まる前）

前学年の学習の
**学び直しの機会**

① 1つ前の学年の同じ領域の「単元チェック」を使ってレディネステストとして実施する。
② 前年度の学習の既習内容の定着について把握する。

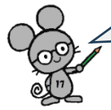
先生

**本単元の指導に生かすことができる。**

生徒

**前年度の既習内容を思い出すことができる。
既習内容について忘れていることを自覚することができる。**

③ 既習内容で定着できていない内容を、「フォローアップ」を活用して、帯タイムや家庭学習等で復習させる。



前年度の既習内容を意図的に取り上げ、本単元の学習内容と比較させたり関連させたりしながら、本単元の学習を進めることで、生徒の理解を広げたり深めたりすることができるため有効である。例えば2年「一次関数」の単元の前に、1年「比例反比例」の「単元チェック」を行うと関連付けて学習できる。

## 活用例2（単元途中）

生徒が
**学びを自己調整**

① 単元の節ごとなどに、小テストとして「フォローアップ」の問題を解かせる。
② 本単元の途中の学習内容の定着について把握する。

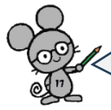
先生

**生徒の理解度を細かくチェックでき、
次の時間の授業に生かすことができる。**

生徒

**単元途中での学習の理解度を自覚することで、学習内容の定着に向けて必要な学習を自ら考え実行することができる。**

③ 学習内容を定着させるためには、どのような学習を行えばよいのか生徒自身に考えさせ、取り組ませる。
（例えば、「フォローアップ」と同じ問題を繰り返し解く、または教科書の内容をもう一度読んで、教科書の問題を解くなど）



単元の始めに、先生から「単元末に『単元チェック』を行う」ことを生徒に伝えておこう。そのうえで単元の途中で、小テストをすることも伝える。あわせて「小テストの目的は、途中段階の自分の理解度を自分で把握すること。大事なことは、そこから自分が理解度を上げるために必要な学習を考えて実行することである」ということも伝えておく。そうすることで、単元末に「単元チェック」をしたとき、小テストでできなかった問題ができるようになると、達成感を感じたり、復習することの必要性を感じたりできる。

## 活用例3（単元末）

**補完の取組**
の計画と実施

① 「単元チェック」を実施する。
② 本単元の学習内容の定着について把握する。

先生

**学級全体の単元の内容の定着状況を知り、補完の取組を考える。また、全体的に正答率が低かった問題は、自分の授業を振り返り、原因を探り授業改善に生かす。**

生徒

**本単元で、理解度を把握し、補うべきことやさらに伸ばしたいことを自覚することができる。**

③ 学級全体を見て正答率が低かった問題は、授業で再度復習する。
④ 生徒に自分の理解状況に合わせて問題を選ばせて、帯タイムや家庭学習で取り組むようにさせる。例えば、苦手な内容が多いと思った生徒には「フォローアップ」の問題を、活用の力を伸ばしたい生徒には「チャレンジ」の問題を勧める。

## 活用例4（各種学力調査後）

「高知まなびばこ」から小学校・中学校の問題を自分で選んで学び直しができる。

① 課題が明らかになった単元について、高知県単元テスト問題を帯タイム等で行う。(強化週間を設定し、集中的に取り組ませる。)
② 定着できているかを確認するために、再度「単元チェック」を実施する。その際単元末に実施した「単元チェック」と全く同じ問題を解けるだけでは十分力が付いたとはいえないので、問題の数値を変えて行う。(「単元チェック」は Word なので、何度も数値を変えることができる。)